

2017年度教員による授業相互参観実施状況報告書(集約結果一覧)

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
法学部	専任教員全科目	7科目(法律学科:4科目、政治学科:2科目、国際政治学科:1科目)	<p>【法律学科】 今年度は、新規開講科目となった「法律学特講(法学部同窓会寄付講座)(企業・団体法務部の実務)」を中心に実施した。同科目は、企業・団体の法務部において実務経験を有する方々(本学卒業生を中心とする)を講師とするオムニバス形式の授業であるが、①専任教員が科目担当者となり、②授業内容をビデオ撮影し、講師間に共有し相互閲覧することにより、各講師が専門的な事柄をどの程度まで話すのか、講義資料としてどういったものを用意するのか、といった相場観の形成・共有に役立てた。参観者には感想・コメント等の法律学科会議への報告を依頼し、学科会議構成員全体で情報を共有することにより、自身の授業への参考とする機会となった。</p> <p>【政治学科】 7名の教員・講師がそれぞれクラスをもつ「政治学入門演習」では、10月に三回の授業を使って合同発表会をおこなった。各クラスは、それぞれの演習での学習の成果を発表し、ほかのクラスの学生のみならず、演習担当の諸教員・講師からもコメント・質問を受けた。この合同発表会を通して、クラスの学習成果を比較検討できたとともに、各教員・講師の学生にたいするプレゼンテーションの指導の方法を共有することができた。「公共政策フィールドワーク」では、夏期休暇中に、4名の教員の引率のもと夕張で実践学習を行なった。教員全員による集団指導のなかで、各教員は、それぞれの地域政治・地方自治にかんする知見を共有するとともに、ほかの教員の考察・分析の視点から自身の考察・分析を再検討する機会を得ることができた。</p> <p>【国際政治学科】 2人の教員が、同一オムニバス授業内で他の教員が担当する授業を相互に1回見学した。スライド・レジュメや文献検索の方法・図書館利用対応などに関して、相互に学び合うことができ、今後の授業改善のためのアイデアが得られた。</p>	<p>【法律学科】 学期冒頭で実施した方が適切な科目もあるため、この点を確実に次年度に引き継ぐようにしたい。ビデオ撮影は相互参観の実施手法としてはかなり有用ではないかと思われるので、オムニバス形式以外の授業においても活用できないか、模索していきたい。</p> <p>【政治学科】 学科教員によるオムニバス形式の講義である「政治学の基礎概念Ⅰ・Ⅱ」については、各授業の相互連関が十分には保証されていない。このプログラムが、授業間の有機的連関を図る一助にならないか学科で検討したい。</p>
文学部	65科目	3科目	<p>例年通り、5月に公開科目を一覧表にして、専任教員に配布した。授業相互参観が実施されたのは3科目であり、うち2科目は文学部共通科目(「文学部生のキャリア形成」と「現代のコモンセンス」)であった。参観者数は計23名であった。昨年度に引き続き、FDミーティング等(授業に関する意見交換会や反省会を含む)を積極的に実施した。実施回数32回であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の成果を踏まえ、それをさらに拡大、発展させる。(哲学科) ・授業相互参観実施をさらに呼びかけていくが、現状に鑑みると、参観が積極的に行われる可能性は低い。よって、学期末のFDミーティングをより充実させていく方法を考えていきたい。(日本文学科) ・プロジェクト「英文学導入教育の理念と方法論の研究」を具体的に進める。(英文学科) ・卒業論文の指導方法について知見を共有し、指導方針の統一を図る。(英文学科) ・次年度は、学科教員が授業参観を行うことのできる工夫をする必要があるものの、現段階では、具体的な対策は検討していない。(地理学科) ・次年度も引き続き担当教員間の情報共有や意見交換を実施する予定である。(心理学科)
経済学部	67科目	10科目	<p>(1)実施方法 ①公開方法 経済学部専任教員は各担当科目のうち原則1科目は授業相互参観科目とする。 ②参観方法 経済学部所属教員は、所定の期間内にあらかじめ参観申込をしたうえで授業参観することとする。 ③公開期間 2017年6月26日(月)～6月29日(木) (2)授業実施者へのフィードバック等 参観申込み者には、執行部まで①授業担当者に対する感想、②授業相互参観制度に関する意見・感想の提出を依頼した。①授業担当者に対する感想については、授業担当者本人にフィードバックを行った。</p>	<p>(1)公開科目数に対して実施科目数が少なかったため、実施時期直前の周知を工夫し、実施期間の延長等を検討し、実施科目数を増やし、経済学部の教育力の向上を図ることが今後の課題である。 (2)兼任講師を含めた授業参観の対応については、今後、検討していきたい。</p>

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
社会学部	全開講科目	48科目	<p>①オムニバス型の授業での実施(6科目) 授業の方法や内容に関する打合せも行い、参加した教員が相互に刺激を与えあう場となった。</p> <p>②本学部ゲスト講師制度を利用した外部講師を招いての授業をととした実施(42科目) 外部講師を招聘し、その授業を参観するだけでなく、外部講師との応答や意見交換を行った。授業方法や内容に関して、刺激を受けることができた。</p>	<p>授業相互参観を含め、教員間の交流を通して授業の方法・内容の改善を図ることを促す。また、ゲスト講師制度を利用した授業等の情報の集約・事前の周知は現在も実施しているが、次年度以降もひきつづき徹底する。 今年度は教員間での個別の授業参観の事例がなかったので、次年度は教授会等の場を通して奨励を強化する。</p>
経営学部	原則として専任・兼任・兼任教員による講義授業とし、演習等の小規模授業は除く。ただし、公開するかどうかは各教員の自由に委ねた。	後述の参考資料の通り 計17回(2016年度27回、2015年度25回、2014年度21回)	<p>(1)実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施の告知:教授会およびメールによって以下の実施内容について周知した。 ・実施期間:2017年5月22日から6月3日。学部での公開期間は上記の通りとするが、授業期間中は相互参観可能とする。 ・参観者の範囲:経営学部の専任教員と兼任・兼任教員とする。 ・事前許可:原則として、参観者は、事前にe-mail等で参観を希望する授業の担当教員に直接申し入れる。 ・入室および退室時間:授業の妨げにならないように、原則として、入室は授業開始前に、退室は授業終了後とする。ただし、授業途中での入室を希望する場合は、参観の申し入れの際に、その点をあわせて担当教員に申し入れる。 ・受講者への告知:参観教員がいることを受講学生にどう伝えるかは、各教員に一任する。 ・参観後のフィードバックと改善:参観後に、参観者は参考になった点等を公開教員に伝える。コメントは事務局を通じて執行部も共有する。 <p>(2)効果</p> <p>授業後、参観した教員から授業を公開した教員へコメント、感想などが統一フォーマットを用いて伝えられた。参観者は、他の教員の講義における成功している授業運営手法を参考にすることができる。参観を受けた教員は、フィードバックによって客観的に授業運営を振り返ることが可能になり、改善につながると思われる。以下に、参観者のフィードバック例を挙げる。</p> <p>●参考になった点</p> <p>授業運営における工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の講義形式とは別に、復習回を設けている。そこでは、授業内容を振り返りつつ、受講生がコメントシートに記載した感想や質問内容をモニターに投影しながら、受講者の名前を読み上げて教員が丁寧にコメントしていた。また必要に応じて、今後の授業で取り上げる内容についても補足していた。 ・授業内容でカバーし切れない範囲外の内容については、経営学部で開講されている関連科目について言及されていた。 ・学生がイメージしやすいような具体例や、教員自身の体験、またトピック的な話題をまじえながら授業を進めていた点や、学生の様子を見ながら「大丈夫ですか?」と確認している点など、学生に理解してもらおうとする姿勢が随所に伺えた。 ・数式・公式については、導出過程よりも、数式・公式の解釈に重きを置いていた。また、具体的な値を数式・公式に当てはめ、実際にどのような結果・数字になるのかを示すような数値例を多用して解説していた。法政の学生にとっては、このような講義方法がベストであると思う。 ・歴史の授業において、その時代その時期の出来事をただ正確に解説するだけではなく工夫がみられた。様々なエピソードや、現在とのかかわりを見つけて説明に入れる姿勢は重要だと思った。 ・先生が歩き回りながら生徒に演習の回答を求める方法は、生徒にとって緊張感があり、授業を聞く姿勢が保たれる。 ・グループを作って授業内容に関する感想を立候補したグループリーダーを中心として共有・ディスカッションさせ、最後にリーダーから結果を発表させる、といった学生の自主的な授業参加を可能とするためのアクティビティが取り入れられていた。 ・講義の途中で、設問について「考えてみる」時間を設けて、学生同士で話し合いをさせた上で、予め指名した何人かの学生に発言を促し、それについて教員からコメントするなど、双方向的な授業の工夫がなされていた。 ・自由回答のコメントを紹介して、学生の(ややくだけた調子のもも含めた)声を丁寧にひろい、学生が先生に問いかけやすい空気を作っている。 <p>教材等における工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントと黒板を併用している。黒板では、三色のチョークを使って、見やすくしている。 ・授業最後にオリジナルのリフレクションフォームを配布し、そこに学習した内容を自分の言葉で書かせることで内容理解を促している。 ・生徒の集中力が切れないように、適宜学習トピックに深く関係する興味深い動画を使っている ・写真や図を適切に用いてわかりやすくする工夫をしていた。 <p>●気になった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板の字が少し見えにくかった。 ・授業中に携帯電話やPCを操作している学生が気になった。 ・スライドの一部にデータの出所を明記することによって、より学習効果が期待できるのではないか。 <p>(3)その他</p> <p>昨年度同様、執行部、着任1年目の教員に加え、ベテランの教員による若手教員への授業参観も行った。これにより、ベテラン教員から、若手教員へアドバイスをを行う機会もなった。また、執行部からの依頼以外に、自主的な授業参観も行われた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と同様、参観者からのフィードバックは、担当者と執行部のみが共有し、他の教員と共有する機会が設けられていない。今後、(必要に応じて匿名化するなどして)FD懇談会などで共有し、全教員の授業運営の改善に役立てたい。 ・経営学部で実施している学生へのヒアリングや、FDアンケートなど、他の取り組みとの連携を図ることで、学部教育への理解を深めたい。

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
国際文化学部	専任教員が担当する全科目。	14科目(春学期7科目、秋学期7科目)。 参観教員数は13名(春学期7名、秋学期6名)。	春学期、秋学期ともに、教員から「参観を勧める授業の科目名・曜日時限・教室・公開時期」を募り、リストにして教授会で共有し、このリストを活用した相互参観を各学期複数回呼びかけた。それに加え、個別に教員と連絡をとって、このリストにない授業を参観する事例もみられた。	ここ3年間の参観教員数は、2015年度9名、2016年度19名、2017年度13名となっており、昨年度と較べると減少した。また、実施科目数は、2016年度が16科目に対し、2017年度は14科目とやはり減少した。「専任教員は少なくとも2年間で最低一回、他の教員の授業を参観することを旨とする」という2014年度3月3日開催の第11回教授会で決定された目標を達成しているとはいいがたい。 参観した教員からは、学ぶところが多かった等の回答が複数寄せられた。また、昨年度、今年度と連続して、あるいは春、秋学期とつづけて他教員の授業を参観する教員がいたことから、教員自身が感じる効果のほどが見てとれる。 昨年度導入した「参観を勧める授業リスト」の使用に加え、こうした授業参観の効果の周知を通じて、これまで参加していない教員を授業参観に巻き込むことが、参観率向上を達成するために有効だと思われる。
人間環境学部	全科目	2科目	本学部では1年生を対象に「人間環境学への招待」という授業を春学期に行っており、5つのコースごとにそれぞれ2名の教員が各自の専門性を踏まえた講義を40分間行っている(合計10教員)。講義はそれぞれが独立した内容で行った場合もあれば、一つのテーマに沿って、ディスカッション形式で行った授業もあり、互いの考え方や話し方などを理解することができた。 また、フィールドスタディという現地学習が国内外で21コース(2017年度)あり、その中で複数の教員が担当するコースが12コースある。異なった専門領域の教員が協力して参加することで、学問領域を超えた教授方法の工夫など、理解することができた。本学部におけるフィールドスタディは、FDの一つである授業相互参観の目的を果たしていると考えられる。(なお、2017年度は新任教員の着任がなかったため昨年度と同様の形態の授業相互参観は実施していない。)	・2018年度着任予定の新任教員による授業参観を実施する。 ・本年度の継続課題として、コース内での相互参観および、基礎演習における相互参観を計画し、可能な範囲で実施する。
現代福祉学部	現代福祉学部専任教員の担当科目(ただし、演習・実習科目、情報・調査系科目、言語コミュニケーション科目、その他、担当教員が公開を希望しない科目を除く)	4科目	春学期(6月)および秋学期(10月末～11月上旬)に実施した。 教授法の質の向上において以下のような点で学びを深めることが出来た。 ・外部講師による公開講座:学内ではあまり接する機会がない企業の「開発・デザイン」の内容に触れることで、学生の視点が変わる契機となった。また受付・司会などの授業運営に学生を参画させることによって、イベントの企画・運営の訓練になっていることも伝わった。 ・パワーポイントと配布資料の活用の仕方がわかりやすく、参考になった。 ・地域コミュニティの問題について、実際の映像なども交えた講義がわかりやすく、リアクションペーパーの活用方法も工夫がなされていた。 ・基礎ゼミにおいて取り組んだグループ研究を発表する合同コンペが今年も行われた。学生が主体的に研究テーマを探り、かつグループで協力して作業を進めていく機会になっており、学びのモチベーションに繋がっていることがわかった。またプレゼンテーションに様々な工夫がなされており、今後専門ゼミにおいて研究を進める基盤になる重要な取り組みと考えられた。	日ごろ、他の教員の授業内容に触れる機会がなかなかないだけに、こうした相互参観は教授法の見直しや工夫に繋がると思われる。教授会等でのアナウンスなどを含め、相互参観の機会を有効活用できるようにしたい。
情報科学部	1科目	1科目	(プログラミング(MATLAB)での実施報告。) この科目は、次semesterにプログラミング演習3(MATLAB)につながるものであり、学生の理解度やスキルを共有するために毎年行っているものである。演習なので、参観者が発言できる場もあり、より突込んだ情報の共有が実現できた。	教員間で学生の理解度やスキルなどに対する情報の共有には、授業参観が非常に有効である。今後、カリキュラムツリーに沿った科目を系統的に参観するなどして、教育の質を高めていきたい。
キャリアデザイン学部	37科目	15科目	春学期の5-6月に、教員が公開する授業を学部掲示板で公開し、教授会メンバーで共有して相互参観や相互の授業検討について呼びかけた。また、それとは別に、本学部は実習・体験型の授業が多く、多様な形態で体験・実習を行っているため、担当教員の間で積極的な情報共有を図ることが重要であることから、こうした授業で相互参観、情報共有が適宜積極的に行われた。 具体例としては、複数の教員の指導の下で学生が実習を行っている科目では、この実習成果報告をポスター発表会として外濠校舎のオープンスペースで実施し、学部の教員が随時立ち寄りコメントをすることにより、成果の共有を行った。また、動画を作成したグループは学部Facebookで共有し、複数の教員がコメントを行った。 また、体験型必修選択科目の担当教員が複数回ミーティングを実施し、それぞれの授業内容や体験の具体的な中身に関して緊密な情報交換を行った。	教員の専門科目を中心に授業を公開することを継続していくとともに、相互参観がより積極化に向けた教員相互の理解促進を図っていくことが必要である。

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
デザイン工学部	【建築学科】16科目 【都市環境デザイン工学】学科主催の全科目(他学科学生との混成クラスを除く) 【システムデザイン学科】8科目	34科目	<p>建築学科においては、1年次から4年次に至る全てのデザインスタジオ科目をはじめとし、卒業研究・卒業設計において、全クラス合同の講評会を行い、兼任を含む教員が相互に他の科目やクラスの内容について理解し議論できるようにしている。さらには、公開の講評会により学内外に対して学習成果を公開し、とくに学外からの評価を受ける機会を設けている。</p> <p>加えて、スタジオ科目、フィールドワークおよび修士設計、卒業設計での優秀作品と、卒業研究の梗概を、それぞれ学科発行誌「法政大学スタジオワークス」、「建築研究」に掲載することで達成状況を共有している。また、年度末には、全スタジオ(デザインスタジオ1～11、造形スタジオ、構法スタジオ、デジタルスタジオ)の専任・兼任教員が一堂に会し、相互参観の感想を基本とした設計教育の振り返りと、新年度方針について討議する機会を設けている。</p> <p>一方、各授業での活用資料や学生の学習成果はもれなくサーバーに蓄積されており、これを学生の自習のため、あるいは教員の授業改善また相互参観のための参考資料として閲覧できる仕組みを設けている。</p> <p>都市環境デザイン工学部においては、学科主催の科目について全教員(兼任も含む)を対象として、授業をビデオ撮影し、相互に参観できるようにしている。具体的には、授業冒頭10分間程度をビデオ撮影し、学内の共有サーバー(専任教員向け)、学科事務内の共有PC(兼任教員向け)にアップロードし、専任教員には動画ファイルを収録したDVDを配布して適宜確認するようにしている。</p> <p>システムデザイン学科においては、1年次「導入ゼミナール」におけるフィールドワーク成果発表、3年次「プロジェクト実習・制作1」、「プロジェクト実習・制作2」、4年次「フィールドワーク(SD)」、「応用プロジェクト」等、クリエーション系、テクノロジー系、マネジメント系横断型必修講義、演習授業が設置されており、各授業、演習授業において各教員の授業相互参観がなされている。</p>	都市環境デザイン工学部において、概ね3-4年程度で全ての対象全科目を撮影・相互参観を目指している。
理工学部	*専任教員が担当する全科目(主に2017年度秋学期開講402科目) 機械工学科:58 電気電子工学科:46 応用情報工学科:44 経営システム工学科:72 創生科学科:98 小金井学部共通:84	37科目(機械7, 電気4, 応情11, 経営5, 創生7, KLAC3)	<p>1.実施時期 主に2017年度秋学期(9月16日(土)～1月21日(日)まで) 2.実施方法 以下の2通りを実施した。</p> <p>a)個別授業相互参観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員は、全ての担当科目を原則として、期間内授業相互参観可能な科目とする。 ・専任教員は、担当教員に連絡の上、所定期間内は自由に授業参観をすることができる。ただし、授業運営の支障とならないように、特に配慮する。 ・相互参観希望者は、科目担当教員と事前に、科目、曜日、希望参観時間(15分～90分 任意)を調整し、教室内等で参観する。 ・参観した専任教員は、必ず参観報告書(委員会提出用及び担当教員提出用)を記入し、各学科担当委員及び科目担当教員に、個別に提出する。 ・実施期間内に各学科の専任教員数の1/3以上の教員の参観を原則とする。 <p>b)学科に特化した柔軟な運用による公開(学科別)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科別にa)とは別の形式で、学科独自の柔軟な運用を含む授業相互参観について検討・実施する(例 PBL、実験・演習、オムニバス形式授業、研究室配属説明会、卒業・修士論文中間発表会を用いたプレゼンテーション能力の検討等)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観の実施率の向上及び個別の授業参観報告書のフィードバック方法の検討 ・客観的な授業改善に関するチェックを簡易的に行えるシステムの検討(報告書含む) ・兼任講師を含めた、全授業における授業相互参観は2018年度より実施 ・組織的な授業相互参観重点科目の検討
生命科学部	春学期93科目 秋学期90科目	春学期22科目 秋学期20科目	<p>生命科学部では、今年度、春学期(6月5日～7月1日)と秋学期(11月6日～12月2日)の2回、法政大学の全教職員向けに授業公開を実施した。本授業公開はここ数年の実施で専任・兼任を問わずほぼ定着した。公開科目数は昨年度とほぼ同数が維持された。</p> <p>本年度は授業参観者のアンケート項目の集計をおこない、75.5%の参観者が自らの授業改善に大変に参考になったと好意的な回答を寄せていることがわかった。また、アンケート自由コメント欄からは、参観することで、講義内容が参考になるのは勿論だが、同時に学生の受講態度をよく観察できるのがとても為になる、学生を飽きさせないように授業を進めるための工夫が参考になった等の意見があった。</p>	授業公開自体は定着してきたため、参観者アンケート項目を増やすことで、参観をうけた教員が授業改善に、よりフィードバックできるシステムを作成する予定である。

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
グローバル教養学部	23科目(春14科目、秋9科目)	23科目(春14科目、秋9科目)	<p>すべてGISの専任教員が参観できることとした。執行部や各分野の専任教員が該当科目の授業を参観し、授業後や後日該当教員にフィードバックをし、必要に応じて面談を行った。また、報告書を教授会ポータルで共有した。春学期および秋学期にFDワークショップを開いて、参観の結果を教授会メンバー全員に口頭で報告し、授業内容や教授法について議論をした。</p> <p>新カリキュラムにより増加した専門科目や新英語必修科目などを中心に授業参観をした。専門科目の内容やレベルが学部のカリキュラムポリシーに合致するかを確認することができた。多くの新兼任教員の授業の創意工夫からは学部専任教員も学ぶべきことが多い一方、新兼任教員には学部の特徴である少人数双方向授業の運営スキル、板書やスライドの工夫などについてアドバイスができ、相互に得るものがあった。</p> <p>授業参観は当学部の教員によるテーマ別のFDワークショップで取り上げた教授法にもつながり、FD活動がさらに活発化された。必修英語科目を担当する兼任教員の工夫が授業参観によって理解された。また教員間の交流のきっかけにもなる。このように、授業相互参観は学部内の様々なFD活動と繋がり、全体的に高い質の授業をさらにレベルアップする効果があった。</p>	<p>次年度も今年度と同様に授業参観を実施する。</p> <p>新カリキュラムによる専門科目増の最後の年に当たり、新科目及び新規採用の新兼任教員担当科目を中心として授業参観の実施を予定している。</p>
スポーツ健康学部	全科目	7科目	<p>手順は、①事前に担当教員への授業参観を申し出る。②授業参観後報告書を作成し提出する。③教授会へ報告する。であった。7科目の参観数があったが、いずれも教員の専門分野の科目であった。</p>	<p>授業参観は数年間実施しているため、専門分野が同じ専任教員間では過去に既に相互に参観しあっているためか前年度より実施件数が減少している。次年度は、専門分野外の科目への参観や、ゲスト講師の参観などを促す。また新任教員にも授業参観実施を促したい。</p>
市ヶ谷リベラルアーツセンター	全科目	12科目	<p>2014年度に取り決めた内部質保証活動の項目として、次の3パターンに分類した。1.新任教員が参観者となる研修型。2.授業相互参観(FD推進センター提唱)。3.ビデオ機材を利用したセルフ型授業参観。でFD活動を実施した。更に2016年度は左記3パターンに加えて、兼任教員との授業運営懇談会の場等を通じて、4.教員相互授業情報交換会をFD活動の一環として実施し、その内容を市ヶ谷リベラルアーツセンター独自フォーマットにて報告を行い、年度末に開催した内部質保証委員会で共有し、一定の効果が認められた事を確認した。また、先駆的な取り組みなどは次年度のILAC運営委員会において内容を共有する予定である。</p>	<p>次年度以降も上述4つの形式によるFD活動を継承・推進させていくとともに、授業の方法・学生の反応・アクティブラーニングその他に関する授業運営の工夫などについて、授業の質の向上を相互に図るための仕組みづくりを構築したい。</p>
小金井リベラルアーツセンター	専任教員が担当する全科目に加え、一部の兼任講師が担当する科目 理工学部主催106科目・生命科学部主催科目24科目 合計130科目	生命科学部主催:5科目 理工学部:3科目	<p>1.実施時期 春学期・秋学期授業実施期間 2.実施方法 個別授業相互参観を基本とした。 ・専任教員は、全ての担当科目を原則として、期間内授業相互参観可能な科目とする。 ・専任教員は、担当教員に連絡の上、所定期間内は自由に授業参観をすることができる。ただし、授業運営の支障とならないように、特に配慮する。 ・相互参観希望者は、科目担当教員と事前に、科目、曜日、希望参観時間(15分～90分 任意)を調整し、教室等内等で参観する。 ・参観した専任教員は、必ず参観報告書を記入し、科目主催の学部に、個別に提出する。</p>	<p>・授業相互参観の実施率の向上のための具体策の策定 ・個別の授業参観報告書のフィードバック方法の検討 ・兼任講師を含めた全授業における授業相互参観は2018年度より実施予定(検討中) ・組織的な授業相互参観重点科目の検討</p>